REC
女子陸上部主将は
ド変態マゾメス犬に
調教されました
基本CG6枚
差分 71枚

●REC
「新入生の皆さんはじめまして。
女子陸上部主将の佳苗れん（かなえれん）です。
我が校の女子陸上部の今年の目標は
全国大会出場！
前年はあと一歩のところで悔しい思いをしたけど
その気持ちをバネに部員一同気を引き締めて
練習に励んでいます。
はっきりいいます。やる気のない子は
入部しないでくれ。
いきなりきついことを言ってごめんなさい。
でも私達はそれくらい本気なんです。
私達と一緒に陸上で青春を過ごしてくれる
熱い子を待ってるよ！」

「はいカット！」
カメラを構えていた男が言う。
今撮っていたのは新入生たちに
見せる部活動紹介の動画だった。
「れん。なかなか良いじゃん。
これ新入生のやつら観たらまたお前のことを
王子様扱いするファンが増えちまうぜ」
男は金髪色黒でいかにも不良という外見だった。
またその男の後ろにも3～4人の不良たちが
たむろしている。

「そうですか？ありがとうございます」
さっきまで凛々しかったれんが不良に
深々と頭を下げる
「じゃぁ、テイク2行ってみようか。
今度はお前の本性さらけだしバージョンだ」
「はい。」
そういわれると、れんは一度深呼吸して
またカメラの前で話しだした

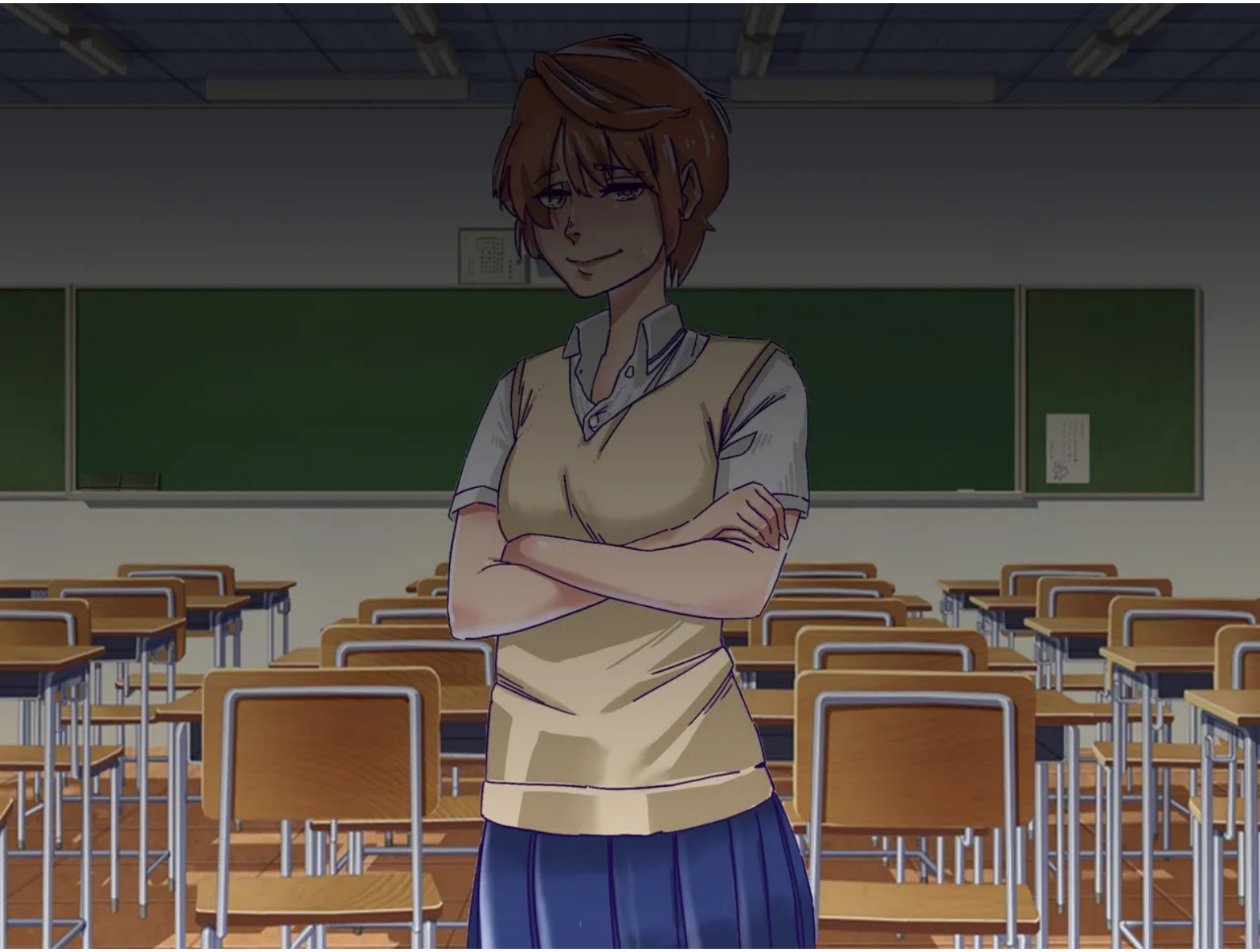
●REC
「新入生のマンコ共、そしておちんぽ様方！
はじめまして。女子陸上部主将兼
クソドマゾ肉便器の佳苗れんです♡
我が校の女子陸上部は全国大会出場を
目指していますが
主将である私はそんな目標ほっぽりだして
毎日マンコとアナル調教に勤しんでいます♡」

●REC
「一日4時間のオナニーや、不良様のお手をお借りしてケツ百叩き♡日々、無様な生き物になれるように練習に励んでいます。
はっきりいいます。20cm以下のおちんぽは近寄ってこないでください。いきなりきついこと言ってごめんなさい。でも私を観ながらのチンコキは大歓迎です。私の貴重な青春を台無しにしてくれる極悪おちんぽ様を待っています♡♡♡！」

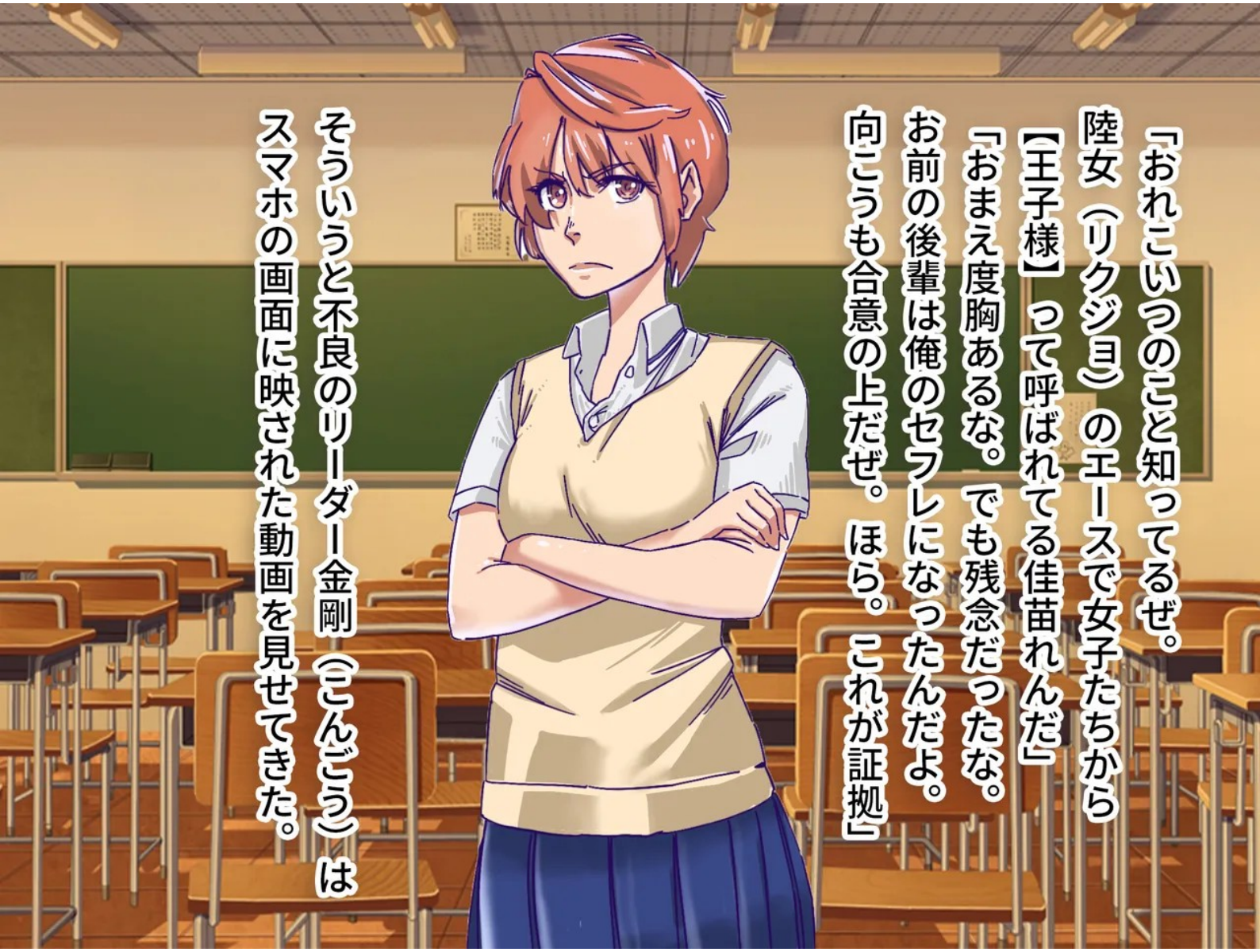
「はいカット！いいね」
男たちがニタニタと笑いながられんをみつめる
「説明会でどっちのバージョンを流すかは
俺達の気分で決める。ドマゾバージョン
ながしちまったら今年の女子陸上部には
新入生一人も入らないだろうなぁ」
「あぁ、そんな事になったら
陸上部のOBの方に顔向けできません」

「じゃぁクソ真面目な方流すか？
おまえはそれでいいのか？」
「何も知らない新入生たち全員にクソドマゾの
本性を知られると想うと
想像しただけでイっちゃいそうです」
「結局どっちだよｗｗｗ」
「おい、この動画だけじゃいまいち
状況がわからねぇだろ。
まずはおめぇがなんで
こんなクソマゾになっちまったのか説明しろ」
「あ、はい」

「新入生の皆さん。驚かせてごめんなさい。
まずはなんで私がこんな救いようのない
バカマゾメスになったのかを
ご説明させていただきます♡
あれは一年前、私がまだ
陸上一筋で無意味に汗を流していた
ガキ処女マンコだった頃の事です・・・。」



1年前
「不良グループのリーダー、金剛ってのはあんたか？」
放課後、不良グループが集まる教室に単身乗り込んだれん。
「は？なんだてめぇ」
「私の後輩にちょっかいをかけたそうだね？あんたらとは生きてる世界が違うの。あんまり関わってこないでもらえるかな？」


「おれこいつのこと知ってるぜ。
陸女（リクジョ）のエースで女子たちから
【王子様】って呼ばれてる佳苗れんだ」
「おまえ度胸あるな。でも残念だったな。
お前の後輩は俺のセフレになったんだよ。
向こうも合意の上だぜ。ほら。これが証拠」
そういうと不良のリーダー金剛（こんごう）は
スマホの画面に映された動画を見せてきた。

安城なるみ

女子陸上部　安城なるみ
勝ち気な性格で身体能力が高く、
陸女の次期エースと言われている。
「で？この私をこんなところに呼び出して、
不良君達がなんのようかな？」
「おう、ちょっと強気な女を
泣かせたい気分でな。
てめぇを俺のセフレにしようと思ってる」

安城なるみ

「はぁ？頭大丈夫ｗｗ？そんなの犯罪じゃん。
警察に突き出して一発で
あんたたち人生終了だよ？」
「俺たちは警察の厄介になるのなんて
しょっちゅうだからな
いいたきゃ言えよ。まぁ俺たちに何されたかを
ちゃんと警察に伝えられるならな・・・」

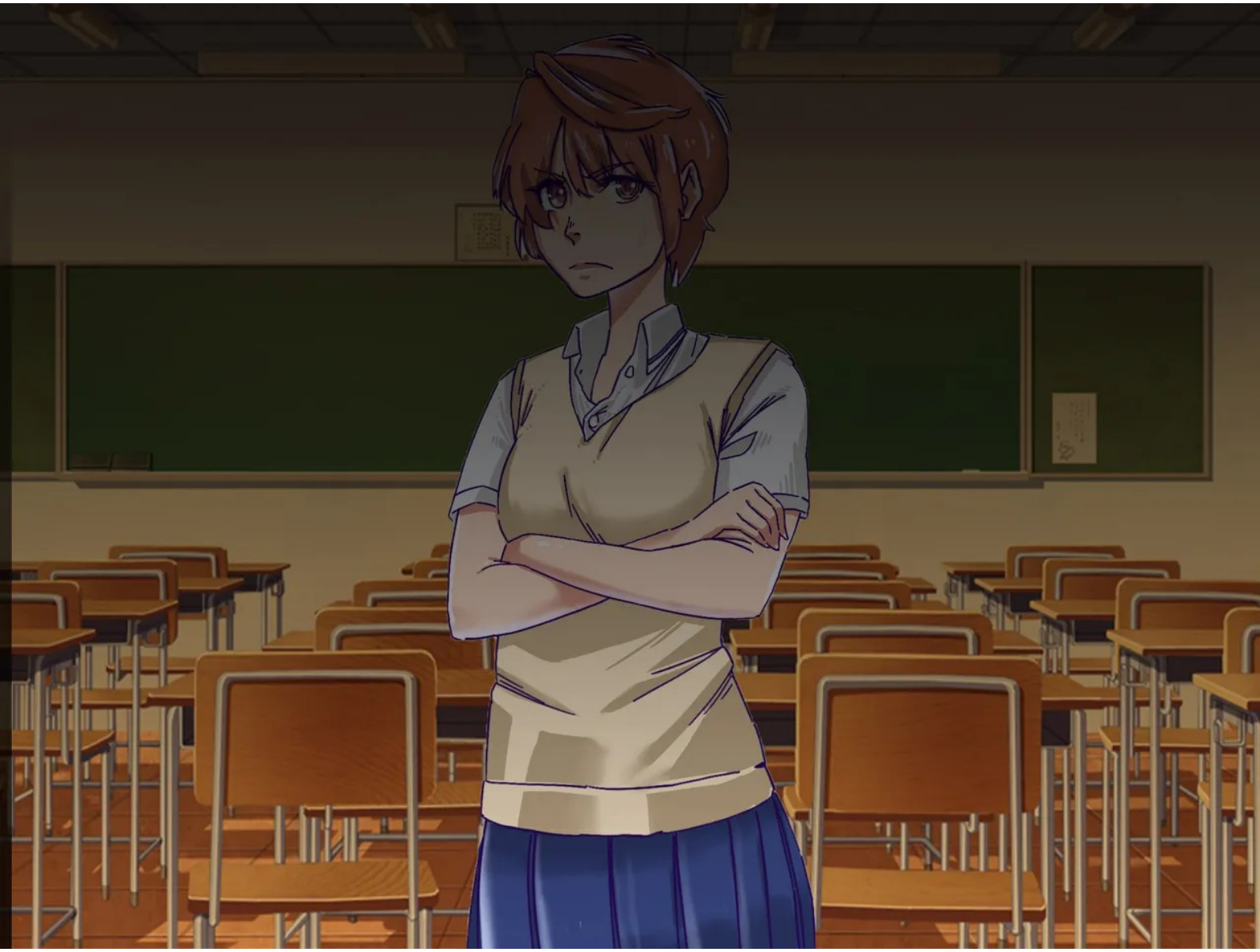
「おら！しっかり股開けや！」
「もう無理です！限界・・・限界ですぅううう」
「たかが半日ガニ股で立ってるだけだろうが！」
「脚ガクガクじゃねぇかｗｗｗ
なにが陸女の次期エースだｗｗｗ」
「辞めさせてほしけりゃもっと笑って宣言しろ！」

「くぅう、不良グループのみなさまぁ
私のぬれぬれおまんこをどうぞ御覧ください！
いまからこのなんの価値もないカスまんこ処女を
不良様方に奪っていただきます
忘れられない無様な思い出作らせてくださぁい」

「まだ声がちいせぇな。やりなおしだ！」
「そ、そんなぁあもう無理ですぅ。
恥ずかしすぎて死んじゃいます
警察には言いませんから、
もう許してくださぁいぃぃ」
「なら一発で終われるように気合い入れろ！」
「ひぎぃぃぃぃ」

「これのどこが合意なんだ!?
いますぐ彼女の動画をすべて消せ!」
「えぇ、せっかく撮ったのにな。
なら交換条件といこうじゃないか」
「なに?」
「この動画を消す代わりに。
おめぇがこれと同じポーズしろ」
「な、私が?!」

「そしたら写真も動画消すし、後輩の安城にも近づかねぇよ」
「・・・わかった」
「ん？えらく物分りが良いな」
「後輩のためだ。その代わり、約束は必ず守れよ・・・！」
「わかったわかったw」



「く・・・これでいいか？」
「いいぜ。それじゃぁさっき教えたセリフを言ってくれ」

「本当にそれを言ったら後輩には関わらないんだな」
「ああ」

「金剛様。そして不良グループのみなさまぁ
私佳苗れん1◎歳の未使用
ぬれぬれマンコたぁっぷりみてくれぇ
1◎年間守り抜いてきた処女だが
いまから不良グループ様方のお遊びで
喪失させていただく！いまからとっても楽しみだ

はじめてなのに興奮しすぎて愛液がとまらない
今日の事は一生忘れられない思い出になるだろう。
さいっこうに無様で惨めで将来の旦那さんに
絶対言えないくらいの恥ずかしい
処女喪失体験させてください！」

「・・・おまえなかなかノリがいいな。
安城はこれ言わせるのに二～三十回
リテイクとったんだぜ」
「最初は泣きじゃくって日本語
喋れてなかったからなぁ」

「10回目くらいで吹っ切れたけど、
それからずっとやらせたんだよなｗｗ」
「もう許してって泣きながら
宣言してるやつもなかなか良かったわｗ」

「く・・・お前ら、そんなことを」
「お前実はこういうの
嫌いじゃないんじゃないだろ」

「そんなわけ無いだろ!!
こんな下劣な行為、一回で終わらせたいだけだ」

「ふーん。じゃぁここで小便しろや」
「え・・・？」
唐突な指示に驚くれん
「後輩と同じことしてたんじゃ
つまらねぇからよお前先輩だろ。
なら後輩よりもハードル高くしねぇとな」
「そんな・・・人前でおしっこなんて、
出ない！出せるわけ無いだろ！」

「普通はそうだよな。でもお前はやるんだよ。
まともな人間じゃ到底できない
変態行為をお前はいまからここで」
「できないならいいぜ。安城にやらすからよ
水飲ませて腹パンすりゃぁ
無理にでも小便撒き散らすだろ」
「く・・・貴様ら」

「で、やるの？やらないの？」
『や、やる。でも本当に出ないんだ』
「膀胱に集中しろ！できなくてもやるんだよ！」
「死ぬ気で出せ。出してる間・・・そうだな。
思いつく限りのエロいオナニー方法を言い続けろ」

『く・・・』
「俺たちを退屈させるな。やれ！」
『うう・・・自分の机の角でする・・・』
「ちゃんと言え。なるべく下品にだ」

「自分の机に、おまんここすりつけて
オナニー・・・」
「教卓に上がって、クラス全員におまんこを
みせつけながらオナニー・・・」
しばらく自分が思いつくだけのオナニーの方法を
言わされた後、れんが小刻みに震えだした

「あ。で、でる・・・おしっこでる」
「出るときにもう一回笑顔でエロ宣言しろ」
「あ、く・・・わか・・・」

「はぁああ」
ジョボジョボジョボジョボ
「私佳苗れん」◯歳の未使用ぬれぬれマンコ
たぁっぷりみてくれぇ
そしてそこからあふれる、
本来見せちゃいけない女子◯生のおしっこも
しっかりみてぇ・・・

これから先おとなになっても
一人思い出して恥ずかしくなっちゃう
おしっこの思い出をさっそく一つ不良様に
作っていただきましたぁ・・・」

全て出し切るとれんはブルッと身震いした
床一面にれんのおしっこの後が広がってく。

「出し終わったらしっかり掃除しとけよ。
小便漏らし」
「はい・・・」

「まぁいい。じゃぁさっきの
宣言通りガキ処女をもらおうぜ」
「くぅ・・・」
「おら、自分からねだれよ。
今度はそうだなぁ自分の駄目なところ探して
ひたすら謝れ。謝罪しろ」

「謝罪？なんで私がそんなことを」
「安城がどうなってもいいのか？お前はバカみたいに俺らのその場の気まぐれを必死こいて実行すりゃいいんだよ」
「くぅ・・・生意気な態度をとって申し訳ありません」

「他には？なんだこのパンツは。
大人ぶってんじゃないか？」
「たしかに、処女のくせにいきがりすぎだ。謝罪」
「大人ぶったパンツで申し訳ありません」
「てめぇが履いて良いのは色気のない
白パンツだけだ。わかったか」
「わかった・・・今度から色気のない
白パンツだけ履きます」
「よし、じゃぁ今履いてるこれはもういらねぇな！」

「きゃぁ！！！おまえら、いい加減に・・・！」
「後輩にも同じことするぞ？」
「く・・・申し訳ございません」
「で、このパンツはどうするんだよ」
「・・・ガキの私にはもう必要ありませんから捨ててていただいて大丈夫です」
それを聞くと不良はパンツを教室の隅にあるゴミ箱に捨てた

「こんなところに捨てたら他のヤツに見つかっちまうかもな」
「誰かのおかずにされちまうかもよ」
「おい、それが原因で将来このクラスから下着泥棒が出たらどうすんだよｗｗ」
「ちゃんと謝っとけよｗｗｗ」
「クラスの真面目な子たちの性癖を歪ませてしまってすいません・・・」

「・・・おい、無駄話ばっかりしてないで、犯すならさっさと犯せ」
「あ？なんだと」
「私はお前らみたいに暇じゃないんだ。早く帰って自主練がしたい」
「ああそうかい。じゃぁ望み通りやってやるよ」

「え？・・・おぎょぉおおおお」
「バカがおら。先にアナルだ」
「いぎぃ・・・いきなり・・・」
「ふざけた事抜かしやがって・・・
てめぇのいまの立場をしっかり覚えとけよ。
気分次第でいつでもてめぇのアナルぶっ壊して
一生クソ垂れ流しの不良品にできるんだからな！」
「い、いやぁあ！そんな人生いやだ！」
「ならアナルで媚びろ！アナル媚謝罪だ！やれ！」

「うぅわ、やめろぉおやめてくれぇ！
私のアナルは不良様のお気持ち一つでどうとでもなる
無価値おもちゃだ！いままでは自分のアナルを
過大評価しておりました
大変申し訳ありま、あぅ・・ありません・・！
でも、こんなお遊びで一生うんち垂れ流し
アナルなんて嫌だ！！
ごめんなさい。勘弁してください！んぐっ
私のアナルは不良様にお捧げしますから
どうかぶっ壊しアナルは勘弁・・・
してくださいぃいい」

「まだ遊びがいありそうだからな
アナル破壊は勘弁してやる。」
れんのアナルは突然のピストンにより
ぽっかりと空いてしまった。
しかし、なんとか不良たちの気まぐれで
アナル破壊はまぬがれたようだ。

「その代わり次はこっちだ！」
「んほぉっ！！！！しょ、しょんな初体験がこんなあっけないなんて」
「初マンコ気持ちいいか！」
「い、いだい・・・でも、これで安城を救えるなら耐えてみせるぅ！」

「ついでだからアナル処女もここで卒業させてやるよ」
「んいいいいいいい。そんな適当にぃぃなにこれぇえええあへえええええ」
「よかったな！レイプで処女なくしたその日にケツ処女もすてるなんて宣言通り無様で惨めな初体験になったろ！」

「くぅぅぅ！さいっこうの初体験させていただいてますぅぅぅ」
「ほらイけ！イキながら謝罪だ！イクときはしっかり宣言してイケよ」
「ひぃぃぃごめんなさい。ごめんなざぁぃぃイく！ずびばぜイく！イくイくイく！！！ごめんなざイくぅぅぅぅ」

「おら、謝罪」
「んお・・・・わ、私の無価値カスマンコとおもちゃアナルの処女喪失で皆様の貴重なお時間を取らせてしまい申し訳ありませんでした」
「今後は俺たちの好きな時、好きな場所でいつでも二穴はめれるように24時間準備しておけよ」
「今後？」
「あたりまえだろ。お前が後輩の代わりにセフレになるんだろうが！」
「そんな！これで終わりだって！」

「いいんだぜ？代わりに後輩が
セフレに戻るだけだからな」
「おら、わかったら奴隷・・・いやいや、
セフレ宣言しろ」
「お前たち・・・覚えてろよ・・・
これからは不良グループ様専用の肉便器として
忠誠をお誓いいたします
私はみなさま専用の忠誠マンコと
従順アナルでございます」
「よし、今日はもうかえって良いぞ」

それから毎日不良たちに呼び出され、マンコとアナルを差し出すれん。しかしその数日後。旧校舎の男子トイレにれんを呼び出した不良たちは

いつもとはどこか様子が違っていた。

「なんで今日呼ばれたかわかるか？」

「はい。私の下僕マンコとアナルで皆様に気持ちよくなって頂くためです」

「ちがう。これを見ろ」

金剛がある画像を見せるとれんはたちまち青ざめた。

「あ！」
「どうもお前が一人で突っかかってきたのが不思議でな。お前の顔で画像検索したら一発でこの画像が出てきたよ
お前、エロサイトに自分のオナニー写真投稿してるな」
「こ・・・これは・・・」

「金剛さん。つまり・・どういう？」
「こいつは元々ド変態で、自分の性欲を満たすために俺たちを利用してたってわけだ。俺たちはまんまとコイツの性処理に付合わされてたんだよ」
「こいつのマンコもアナルもはじめから処女じゃなかったってことだ」

「お前！騙しやがったのか！」
「すいません！そんなつもりじゃないです！
おちんぽは！おちんぽは初めてでした！
ただいろんな玩具を入れて遊んでるうちに
処女膜自分で破っちゃって・・・
恥ずかしくて言えなかったんですぅ！！」
「どうりでノリが良いはずだぜ。
嫌がるふりして本当は期待してたんだからな」
「それは・・・・申し訳ありませんでした！！！」

「・・・。れん。おれは最高に不愉快だぜ」
「はい・・・すみません」
「どうせこれがバレるのも想定内だったんだろ？」
「そ・・・そんなことは・・・」
「はっきりいえや！！！！」
「ひぃ！！！！すいません！すいません！！！
ネットにはいつも顔を隠して投稿しているんですが
金剛様にバレたらどんなことを
してくださるだろうって想像してしまって・・・
顔無修正の画像を投稿してしまいました！！！」

「とんでもないド変態だな」
「おまえ学校では王子様キャラで通ってるんじゃねぇのかよ」
「はい。学校でみんなにチヤホヤされればされるほど、変態マゾ豚になった時の興奮が倍増するんです」

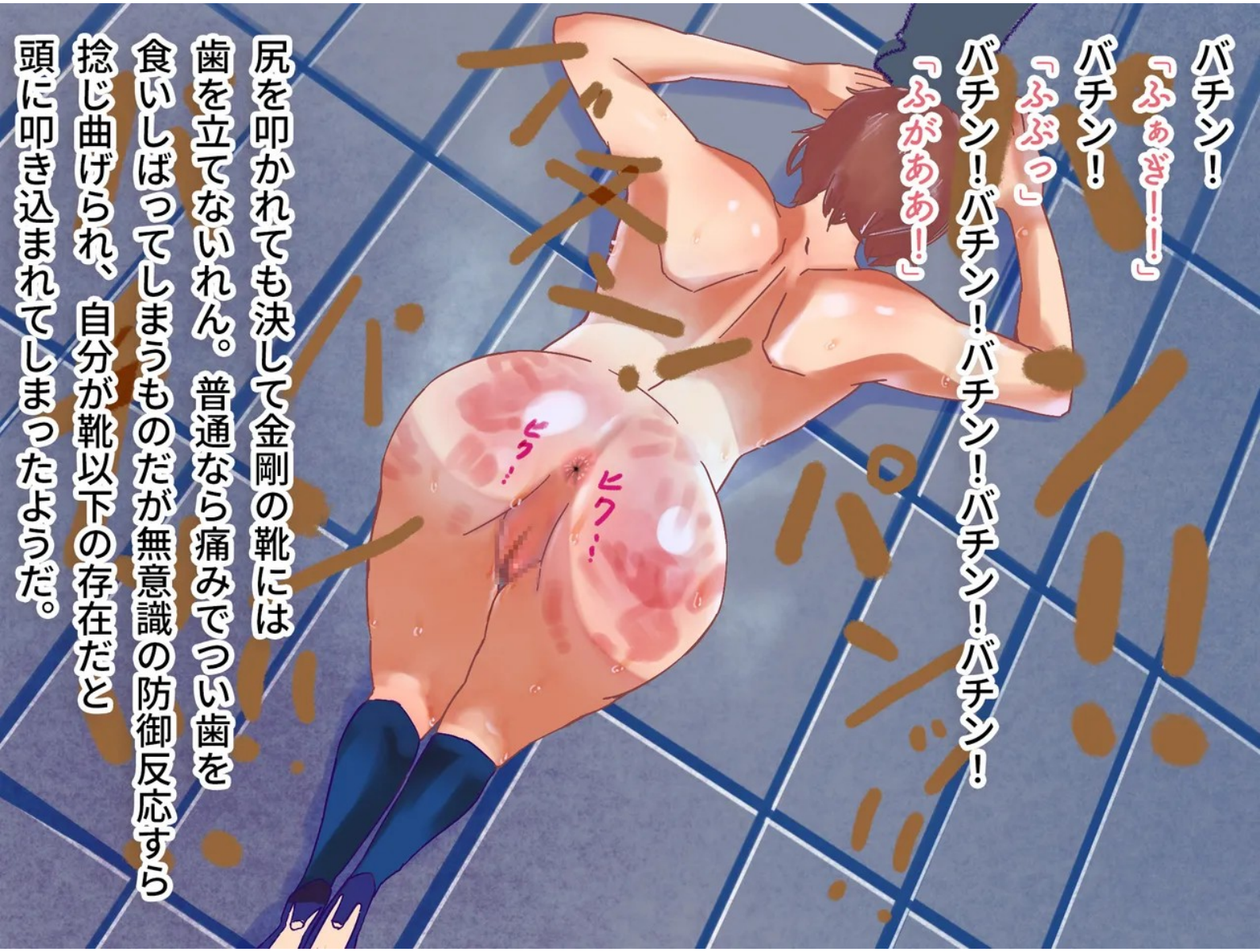
「皆さんを騙そうと思ったんじゃないんです!!
それに、男の人とエッチしたのは皆様が初めてです
本当です!今まではこっそり買った
バイブやローターで我慢してきました!」
「皆様の性処理肉便器になれて本当に良かったと
思ってるんです!だから捨てないでください!
お願いします!!」
ヒク…!
ヒク…!

「・・・。おい、靴なめろ」
「・・・はら」ペチャ・・・ペチャ
「俺たちを騙していたことに対してはこれから
罰を与えるとして・・・」
「ふぁい・・・」
「お前がその気なら こっちも気兼ねな〜
お前をおもちゃにできる訳だ。悪い話じゃねぇ
だからしばら〜は俺たちがお前のことを飼ってやるよ」
「ふぁりふぁろーりぇりふぁふ
(ありがとーございます)」
「その代わり俺たちの玩具になるのがどれだけ
エグいかをしっかりわからせてやらねぇとな」
「ふぇ〜」

バチンッ！
「ふぎぃ―！！」
「まずは尻百叩きだ。しっかり反省しろよ」
そういうと不良たちは順番にれんの
お尻に思い切り平手打ちしていった
バチン！
「ふぁぎ―！！」
バチン！バチン！
「ふぶっ」
バチン！バチン！バチン！
「ふがああ！」
ヒク！
ヒク！

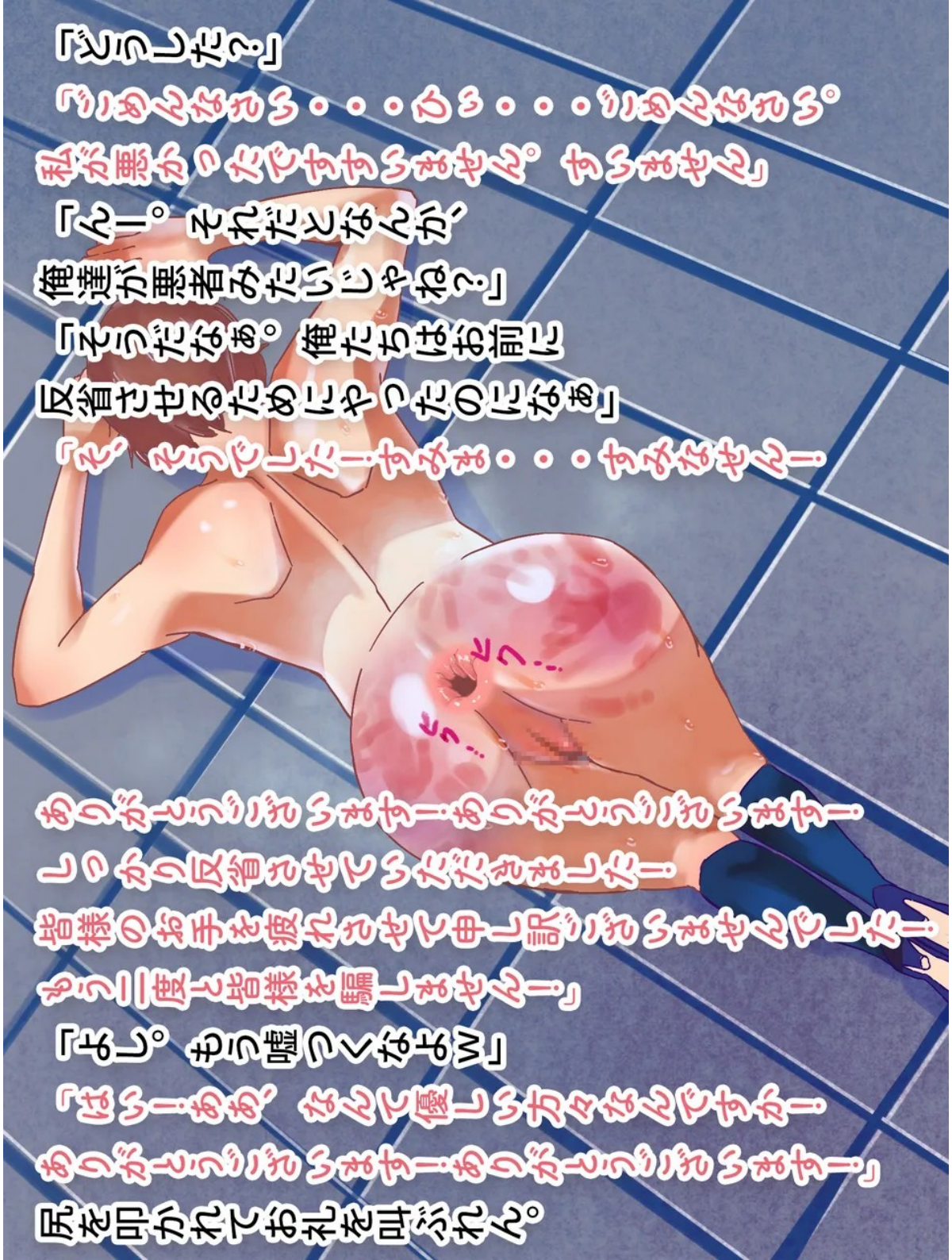
見る間にれんの尻は赤く腫れ上がり
2〜30回目で早くも泣き出してしまう
「い、いだいぃい勘弁！勘弁してください！！
お尻なくなってしまいますぅう」
「おい、靴はなめ続けろよ」
「あ・・・ふいふぁへむ（すいません）」

バチン！
「ふびぃいいいい」
「おい！靴噛むな！！お前のケツより
俺の靴のほうが格が上だろうが！」
「ひぃ・・ひぃい！！」
「これに耐えたらペットにしてやる。
いいか。次【やめてほしい】って言ったら。
本当にやめちまうぞ」
れんは金剛を見上げて、泣きながら首を縦に振った。



尻を叩かれても決して金剛の靴には
歯を立てないれん。普通なら痛みでつい歯を
食いしばってしまうものだが無意識の防御反応すら
捻じ曲げられ、自分が靴以下の存在だと
頭に叩き込まれてしまったようだ。

100叩き終える頃にはれんも
顔は涙と鼻水とよだれでぐちゃぐちゃだった
「よし、いいだろう。靴なめもやめていいぞ」
「・・・は・・・はひぃ・・・」
「しっかり反省したか？」
「は、反省いたしました！！」
「よし。クソマゾらしく下品に謝罪しろ。
すこしでも俺たちの気に障ったら
また尻百叩きだぞ」
「ひぃいいいい！！！ああ・・・あう・・・あああ」


「どうした？」
「ごめんなさい・・・ひっ・・・ごめんなさい。
私が悪かったですっ。ですっ」
「んー。それだとなんか、
俺達が悪者みたいじゃね？」
「そうだなぁ。俺たちはお前に
反省させるためにやったのになぁ」
「そ、そうでしたー。すみま・・・すみませんー。
ありがとうございますー。ありがとうございますー。
しっかり反省させていただきましたー。
皆様のお手を煩わせて申し訳ございませんでしたー。
もう二度と皆様を騙しませんー。」
「よし。もう嘘つくなよw」
「はいー。あの、なんて優しい方々なんですかー。
ありがとうございますー。ありがとうございますー。」
尻を叩かれてお礼を叫ぶれん。

「おいwケツの穴閉めろよww内蔵まで見てんぞw」
「あっ、申し訳ございません・・・嬉しすぎて
アナル緩んでしまいました・・・」
「仕方ねぇ穴だな」
そういうと不良たちはズボンを下ろし、
れんのぽっかりアナルに向かって小便をだした
「あぁあ、おしっこが、おしっこが私のアナルに」
「便所なんだから文句ねぇよな?」
「はひぃ!文句ございません!お気の済むまで
私のアナルをお便所としてお使いくださいませ!!」
ヒク!
ヒク!

深夜のグラウンド。日中はここで女子陸上部が全国大会へ向けて練習をしている場所である。
「金剛様。今日は何を？」
「お前が前にネットに上げてた写真あったろ？あれを再現しようと思ってな」
「それもおまえがいつも練習してるこの場所でだ」
「そ、そんな事したら、練習中そのことを思い出して、オマンコがビショビショになってしまいます・・・」
「なるから、なんだ？」
「ビショビショになって・・・最高に興奮してしまいます・・・」
「どこが良いかなぁ」
「更衣室の真ん前とか」
「グランドのど真ん中はどうだ？」
「そうだな・・・よし。れん。お前が一番興奮するところはどこだ？」
「え？」
「そこで撮らせてやる。」
「あぁ・・・そんな・・・」
「どこだ？」

「・・・一番、集中力を使う場所。
グランドのスタート地点でオナニー
させられちゃったら・・・・」
「そのことを思い出してスタート切る度に
エロエロな気分になっちゃいます・・・」
「そうしたらもう今後一生、
まともなスタートは切れなくなると思います」
「・・・・そうか」

「はぁ・・・あああ!!!佳苗れん1◎歳
女子陸上部主将1回目アクメします!」
「もっと声出せ!!」
「ああ、だめぇばれちゃう。だれかにバレちゃう」
「バレたらどうするんだ?」
「あぁあ、私のオマンコ誘惑でぇ・・・
魅了しちゃいますぅううう」
グランドで大声でアクメ宣言をさせられるれん。
バレたら即停学ものだが、見つかったら
マンコとアナルを使ってどうにか
見逃してもらえと命じられている。
「おい!こっちも手抜くなよ!写真ではもっと
奥まで指入れてたろうが!」

「ごめんなさいぃぃ。でもだめなのぉ
イき過ぎちゃう」
「イッても手止めるな。イキ続けろ」
「ひぃ・・ひぃ！佳苗れん1◎歳
女子陸上部主将2回目アクメします！」
「ピースも忘れるなよ。
てめぇが余裕ぶってる姿なんかみたくねぇんだよ」
「息切らしてもオナニー止めるな！」
「はぁ・・・はぁ部活の練習よりキツイです！」
「ケツも忘れるな！自分で揉みしだけ！」
「こんなの、駄目・・駄目になるぅぅぅもう一人で
オナニーしてた頃には戻れなくなっちゃうぅぅ」
「てめぇみたいなド変態がもう後戻りできる
わけねぇだろ！おらイケ！」
「うぎぃぃぃ佳苗れん1◎歳
女子陸上部主将3回目アクメします！」

何度アクメしても終わらせてもらえず、
れんはひたすら、金剛たちの気が済むまで
オナニーを続けさせられた。次第に金剛たちは
れんに目をくれず仲間同士で話し込んでいく。
しかしそんなときでもれんは手を休めることは
許されず黙々とイキ、絶叫宣言を続けるのだった。

「佳苗れん1◎歳女子陸上部主将10回目アクメします！」
「佳苗れん1◎歳女子陸上部主将11回目アクメします！」
「佳苗れん1◎歳女子陸上部主将12回目アクメします！」
「佳苗れん1◎歳女子陸上部主将13・・・14・・
15回目アクメします！」
「佳苗れん1◎歳女子陸上部主将1あぁもうだめぇぇぇわ
かんにゃい・・なんかいいったかわかんにゃいよぉぉぉ」

『よし、れん。【待て】だ。イクの我慢しろ」
「はへ？」
「オナニーは続けろ。でもイクのは我慢だ」
「そ、そんなぁ・・・
んあっはイキそう・・・イキそうです」
「だめだ。我慢だ」

「んくぅぅぅぅぅ・・・・・!!!我慢!!!!
我慢!!!!我慢!!!」
「おいおい、１◎歳がしていい
顔じゃないだろそれｗｗｗどんだけ必死なんだよ」
「うきゅぅぅぅぅ・・・イッちゃいます・・・
だめ・・だめ・・・」
「イクな！我慢しろ！絶対イクなよ！」
「ふっ・・ふっ・・・」
まるで犬のように待てを躾けられ従順に従うれん。

『よし、れん。俺のちんぽでイケ！』
「あへぇ・・・あへぇぇぇ

その後も代わる代わる不良のちんぽにマンコもアナルも侵され続けるれん。

「あぁあくりぅうぅうおちんぽ！おちんぽぉおおお」

「おい、おちんぽ様だろうが。ちんぽにもちゃんと敬語使えマゾ便器犬！」

「はぁはぁ・・そうでした。失礼いたしました。

おちんぽ様。私のマゾマンコを気持ちよくしていただいてありがとうございます・・・」

「ちんぽに感謝しながらイケ」

「ありがとうございますおちんぽ様！

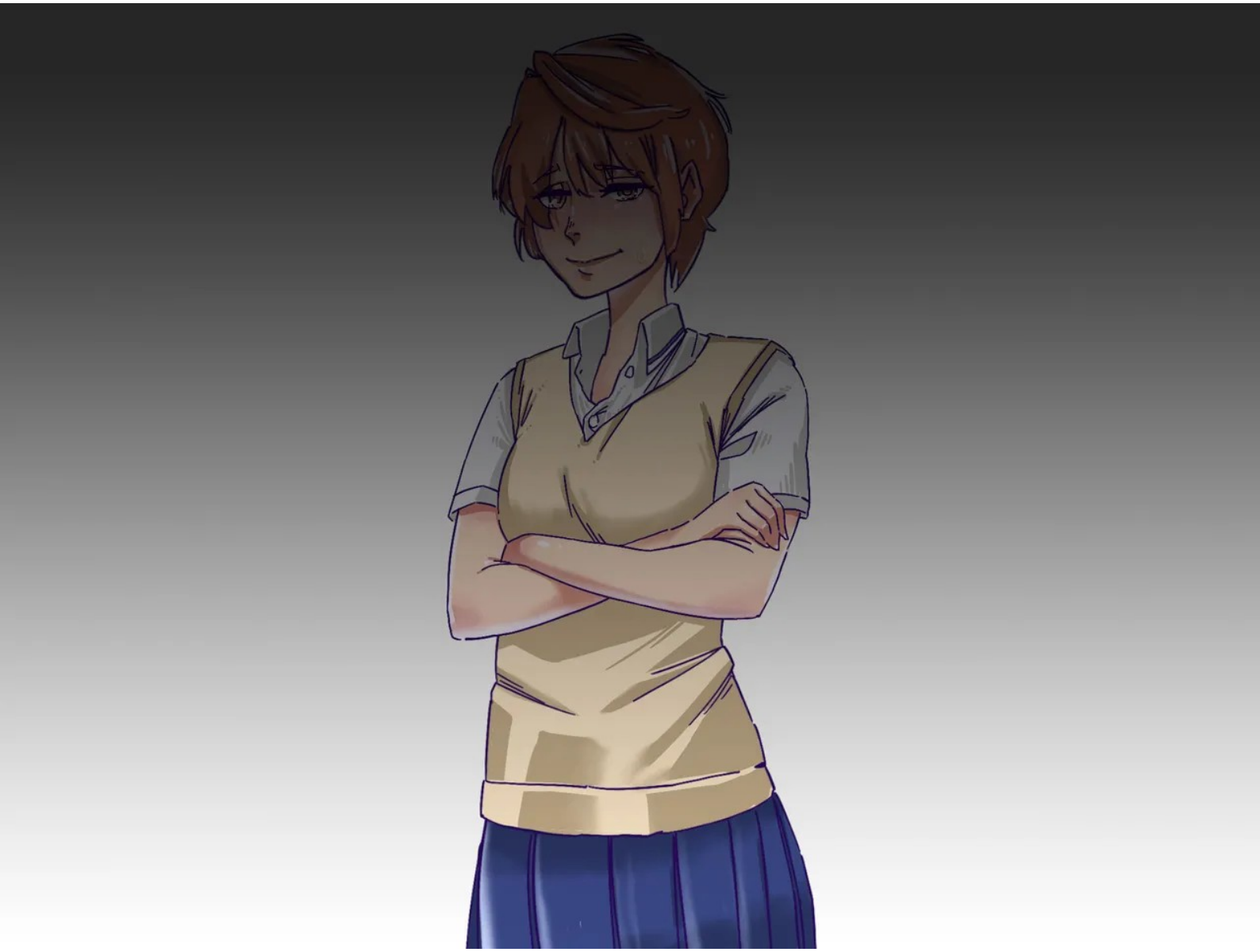
ああおちんぽ様ばんざい！

おちんぽさまぁあああイク！！

おちんぽ様いくぅうううう♡♡」

「しかし金剛さん。なんでスタート地点じゃなくて、ゴール地点でれんにオナニーさせたんです？」
「ああ、あいつはまだ陸女で活躍させたいからな。ゴールだったら。ここに向かってエロパワーでもっと早く走れるだろ」
「なるほどぉ・・・」
「じゃぁれん。俺たちはもう帰るけど、お前はここであとマンコとアナル１０回ずつアクメってから帰れよ」
「はひぃ。わかりまし・・・佳苗れん１◯歳女子陸上部主将３５回目アクメします！」
れんの絶頂宣言を聞きながら不良グループは帰っていった。

時間は戻って
「新入生のみんな。しっかり聞いてくれたかな？
私の話を聞いておちんぽ様を勃起させちゃった
生徒がいたら、いつでも、私のところに来てくれ
1年間でみっちり鍛えたエロ
ロマンコテクでイかせてやるぞ」
「はいオッケー」
金剛がカメラを止める。
「んじゃぁこのまま学校の校舎紹介も撮っちまうか」
「あ、はい」
「ただ撮るだけじゃ詰まんねぇからな。
これも、王子様バージョンと
メスマゾバージョンで撮るぞ。
「お前がいままで校舎でやってきた変態エピソードも
全部話してもらうから。覚悟しとけよ」
「・・・・はい♡」



次回予告
プールサイドで、保健室で
ありとあらゆるところでセックスを躾けられ、
学校のどこにいても発情してしまう
メス犬に調教されてしまった佳苗れんの
調教エピソードを公開

すました王子様キャラバージョンと
完全に堕ちたメス犬バージョンの差分あり
そして後輩、安城なるみのエロエロ
アナルレッスンも♡
ご期待ください！